

教職課程における 教育実践力向上CBTの活用について

北海道教育大学旭川校 准教授 山中 謙司



教職課程における 教育実践力向上CBTの活用について

1. 教育実践力向上CBTについて

- 背景とねらい
- 実践・省察科目群での位置付け
- 問題群, 内容構成

2. 「Testing」としての活用

- 活用プロセス

3. 「Training」としての活用

- 「e-learning」としての活用
- 学校教育の実践と省察Ⅲでの活用

4. 成果

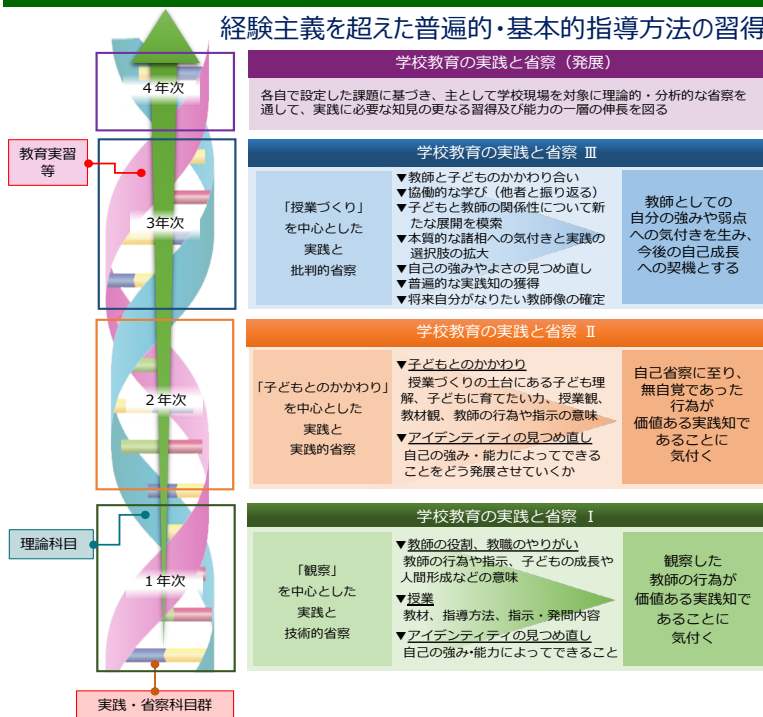
5. 現状と今後の展開

1.教育実践力向上CBTについて

背景とねらい

実践的省察を通じて学び続ける教師へ

経験主義を超えた普遍的・基本的指導方法の習得



「スパイラル型カリキュラム」に組み込んだ教育実践力向上CBT

教師になるために学ぶ意欲と自信の高まり



教職に関する基本的な法令や指導方法等の知識を確かなものとする

「個に応じた」「必要感」のある「最低限」の学びの保障

教育実践力向上

Computer Based Testing & Training

教師としての資質や指導力を培うため、学校現場で起こりうる実践場面を題材とした問題に段階的に取り組む

教職の難しさ実感・教員志望の低下

教師と子供との相互作用による営みは、不確実・不確定・複雑で動的であり、臨機応変に対応する必要がある

「一律一様」の理論的な学びだけでは、実習等で一人一人が把握した課題意識を消化する場がない



教育実習等

理論科目

hue

1.教育実践力向上CBTについて

実践・省察科目群での位置付け、問題群、内容構成

実践・省察科目群での位置付け

＜本質的な諸相を考えながら、より適切な選択に基づく実践へ＞

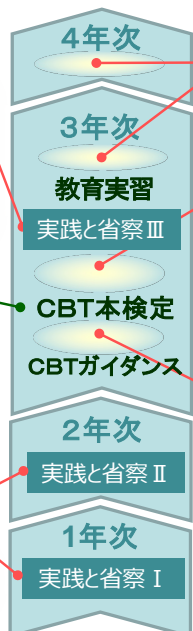
Training4 (協働)
教育実習の省察
協働的な学びによる
本質的な諸相への気づきと
実践の選択肢の拡大
アイデンティティの
見つめ直し

Testing (教育実習の履修要件)

コンピュータ上で各項目内でランダムに出題される50問のうち、7割の正解で合格

Training1 (個別)

学校現場における実践の省察課題を把握し、問題集で確認



Training5 (個別)

フィールド研究を通して新たな実践の試行

Training3 (個別)

教育実習までに検定で明らかになった苦手な内容について学び直し「e-learning」の活用

Training2 (個別)

ガイダンスを契機としてこれまでの学びを問題集を基にチェック「e-learning」の活用

問題群

1. 教師論
2. 学級経営
3. 学習指導
4. 特別支援教育
5. 生徒指導
6. 危機管理
7. 学習指導要領教育課程
8. 法規

問題作成者は、校長、教頭、教育委員会指導主事、国立教育政策研究所学力調査官経験者である学校臨床教授。

基礎編～教育実習前に取り組む問題。検定に合格することが、教育実習の履修要件。210問。

応用編～教育実習後に取り組む問題。教育実習からの学びをさらに深め、教員採用試験等の対策にも。450問。

発展編～より実践的な問題。採用前、あるいは初任段階で取り組むことで、現場での実践力向上を図る。380問。

hue

2.「Testing」としての活用

活用プロセス

入学時に「教育実践力向上CBT問題集」（冊子版）の配付

ガイダンス

- 2年次の3月*1に事前説明会を実施
- 趣旨や学習の方法、不合格者への対応等を説明

* 1旭川校の場合

自学自習

- 本実施までに問題集で学習
(単に正誤だけではなく、なぜそのような対応が求められるのか解説を読んで理解する)
- 「e-learning」の活用

本検定

- 教育実習前の指定された日時に自宅等での受験
- 結果の確認（得意・不得意の内容を把握）
- 50問中35問の正解に達しない場合は再受験
- 再受験でも基準を達成できない場合は、学校臨床教授の指導による補講

自学自習

- 弱点補強のための復習

教育実習の参加

No.1 授業参観の心構え

他の教師の授業を参観する際の心構えとして、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

解答を選択してください

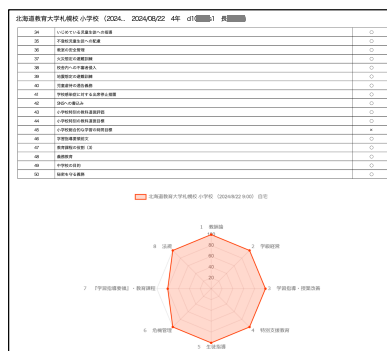
- ☐ 批判的な視点のみで参観する。
- ☐ 自分ならどうするかの意識を持って参観する。
- ☐ メモを取るなど記録化する。
- ☐ 学級の実態もあわせて参観する。
- ☐ 授業者のよさや工夫点を見つけるように参観する。

← 前へ

1/19

次へ →

検定時の画面



検定終了時に
表示される
結果の画面

3.「Training」としての活用

「e-learning」としての活用

国立大学法人 北海道教育大学

国立大学法人 北海道教育大学 > 目的別メニュー

目的別メニュー

在学生の方

修学支援

- 教育支援総合システム (Live Campus U)
- PDF 感染症による欠席届 (404.21 KB)
- 統合認証パスワード変更 (学内専用)
- シラバス検索
- 附属図書館
- PDF 教育実践力向上CBTシステム (710.13 KB)

学生支援

- 授業料の納入
授業料の納入方法・納期等についてのご案内です。

本学ホームページ画面

マイページ

ユーザID: hue_teach4 氏名: 【北海道教育大学】 副司考成者4

[e-Learning](#)

北海道教育大学WG用 (小学校)

受験期間 2021/08/02 16:20 ~ 2022/03/31 00:00 [受験する](#)

北海道教育大学WG用 (中学校)

受験期間 2021/08/02 16:15 ~ 2022/03/31 00:00 [受験する](#)

ユーザID: hue_teach4

A 基礎編 解答数/問題数 0/177 正答数/正答率 0/0.00%

B 応用編 解答数/問題数 2/491 正答数/正答率 2/0.41%

C 発展編 解答数/問題数 0/372 正答数/正答率 0/0.00%

[チェック問題](#)

[前のページに戻る](#)

3.「Training」としての活用

学校教育の実践と省察Ⅲ（3年次）での活用

学校教育の実践と省察Ⅲ

「授業づくり」を中心とした実践と批判的省察

▼教師と子どものかかわり合い

▼協働的な学び（他者と振り返る）

▼子どもと教師の関係性について新たな展開を模索

▼本質的な諸相への気づきと実践の選択肢の拡大

▼自己の強みやよさの見つめ直し

▼普遍的な実践知の獲得

▼将来自分になりたい教師像の確定

教師としての自分の強みや弱点への気づきを生み、今後の自己成長への契機とする

3年生を対象に、附属学校・拠点校・小規模校での授業をビデオ視聴し、授業者とのオンラインによる交流等を通して、授業実践上の課題や新たに見つけた課題の解決を目指した授業研究や省察活動を行い、学級経営力・授業分析力・授業運営力等、実践に必要な知見の更なる習得及び能力の一層の伸長を図る



学校現場とのオンラインでの交流



配信された実際の授業を視聴

授業者と質疑応答

再現教室やラーニングコモンズを利用した講義時間以外の学生主体の模擬授業づくりで実践



問題の本質を見極め、より適切な選択に基づく実践を可能とする力の育成

教育実践力CBT問題を取り入れた学び

示された選択肢以外の内容を考えて、実践上の選択肢を拡大する

個人思考（3分）
できるだけ多くの内容を考えて、数を確保する

グループワーク（10分）
話し合いを通して、質の向上を図る

全体発表（10分）
実践上の選択肢を増やす

板書する際の配慮事項として、あまりふさわしくないものを1つ選びなさい。

ア 一時間の授業の流れがわかるような構成を心掛ける。

イ 目立つことが重要であるから、色チョークをどんどん多用してカラフルにするよう心掛ける

ウ 児童生徒の考えを位置づけ、生かすように心掛ける。

エ 掲示物やICT機器、ホワイトボードなどを効果的に併用するように心掛ける。

オ 色チョークや文字の大きさ、枠、矢印などの工夫をすることで、分かりやすい板書を心掛ける

いじめとふざけを見極める際の対応として、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

ア 担任だけでなく、管理職、生徒指導部、学年主任などで、事実関係を正確に把握する。

イ 双方の児童生徒を個別に呼んで、チーム体制を組んで事実関係を聞き取る。

ウ 担任が「ふざけの範疇」と判断した場合は、しばらく静観することにする。

エ 被害児童生徒がいじめと受け止めた場合は、いじめと認められることについて、他の児童生徒に認識させる。

オ 事実関係を正確に把握し、学校の対応方針等を確認するとともに、全教職員で共通理解を図る。

3.「Training」としての活用

学校教育の実践と省察Ⅲ（3年次）での活用

3 学習指導・授業改善（全員参加）

発問に対して一部の児童生徒しか反応しないときの対応として、ふさわしくないものを1つ選びなさい。

- ア. 全員が挙手するまでいつまでも待つ。
- イ. ノートに予想を書かせ、机間指導した際に認めるなどして自信を持たせる。
- ウ. 黒板にネームカードを貼らせて、立場を明確にする。
- エ. 選択肢を示してどれかに挙手させる。
- オ. 隣の子との話し合いを行わせて、自信を持たせてから挙手を促す。

他には…

- 既習の内容を確認する。
- 考えを表出しやすい幅のある問いかけにする。
- 子供の考えと異なる考えを提示する。

その行為の裏にある意図は…

- 誰一人取り残さない学びの実現

子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割

ふさわしくない対応の選択
根拠の確認

自分の見聞きした経験を超えて
多様な方法があることを認識する

選択肢に示されるふさわしい対応の確認

実習時の対応の想起 対応の理由・子供の反応

妥当性の検討（協議）

自分ならばどのように具体的に
行動するかをイメージする

無意識の対応 → 行為の価値の自覚



教員になる上での
課題の自覚

理論科目・教科指導法等、
他の学修への
主体的・能動的な学びへ

本質的な諸相への気づき
普遍的な実践理論化

対応（行為）の
選択の拡大

フィールド研究を通して
新たな実践の試行へ
自分でアレンジできるか
他の方法はあるか

4.成果

学生による教育実践力向上CBTに対する評価

○授業の経験が少ないので学校現場イメージがわからず不安でいっぱいでした。ですが、CBT問題を活用することで必要な知識を手に入れることができ繰り返し問題を解いたり解説を読むことで少しずつですが自信に変わっています。CBT問題は教育実習に向けた準備や気持ちに直結するものだったと思いました。

○法規はCBTがなかったら勉強しなかったと思うので助かった。

○学習指導や教職論については講義で多く学習してきたが、危機管理についての学習機会が少なかったため、児童生徒の健康についてや災害時の対応についての問題でイメージが高まった。

○学級経営の問題で言葉遣いに関する指導や生徒の対応に関する問題が出題されており、実際に学校現場で実習をしているときにもどんな対応をするべきかということがより明確になった。

○学習指導・授業改善の問題で授業中の指導だけでなく、授業を計画する上で何を意識して授業を展開するかを問う問題が出題されており、教科の教授法だけでなく、指導上の注意点をより学ぶことができた。

○CBTを通してイメージをもち、教師のあり方や子供との関わり方について考えを深めることができた。実際に子どもたちを目の前にした時に、柔軟に対応する力を身につけたい。

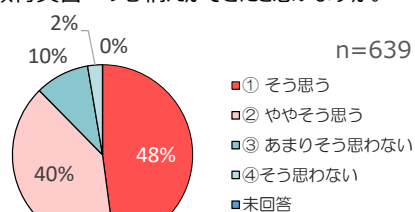
○CBTを通して、生徒との実際のかかわり方や、教員としての心構えについて、改めて学び直す機会となった。CBTで問われていたこととしては「生徒1人1人の意見を尊重すること」や「教員としてふさわしい行動」等、当たり前のことも多かったが、教員として「当たり前」に求められていることを改めて確認できる貴重な機会であったと感じている。CBTを通して、教員として求められることや、心構えについて学び直すことができた。教育実習までには、生徒の実態や、教科指導で求められること等について、より学びを深めておきたいと感じた。

実習に必要な
学びへの
動機付け

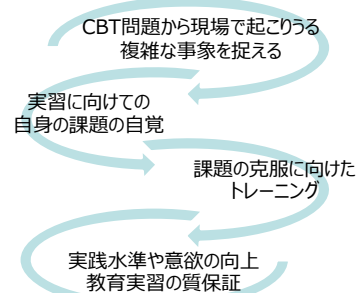
実習に必要な
実践方法を
イメージ

普遍的な
実践理論の
獲得に向けた
意識化

教育実践力向上CBTに取り組むことにより、教育実習への心構えができたと思いますか。



令和6年度「教育実践力向上CBTアンケート」



HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION hue

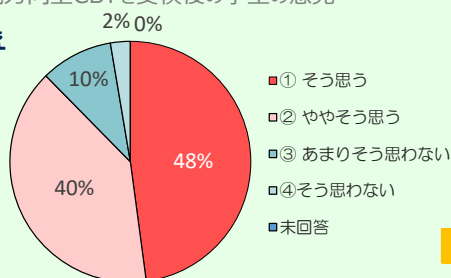
4.成果

教育実践力向上CBTで教師としての基礎的な資質能力や指導力の形成

教育実践力向上CBTを受検後の学生の意見

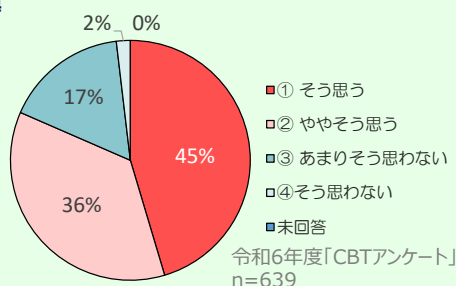
教育実習への心構え

教育実践力向上CBTに取り組むことにより、教育実習への心構えができたと思いますか。



知識や考え方の獲得

教育実践力向上CBTに取り組むことにより、学校現場での指導をイメージしたり、指導上求められる基礎的な知識や考え方を確かなものにしたと思いますか。



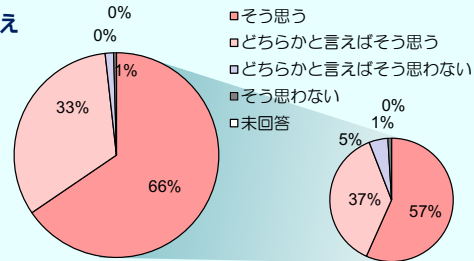
令和6年度「CBTアンケート」
n=639

学校現場を活用した授業科目「学校臨床研究」で教師としての実践力を形成

授業科目「学校臨床研究」後の学生の意見

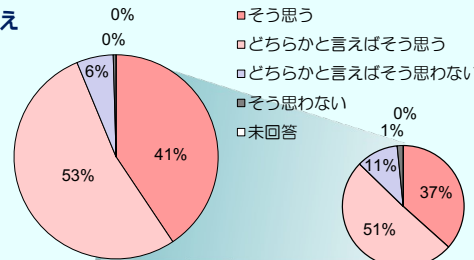
課題設定力向上の手応え

教育実習等で自覚した自分の課題を明確にすることができたと思いますか。



課題解決力向上の手応え

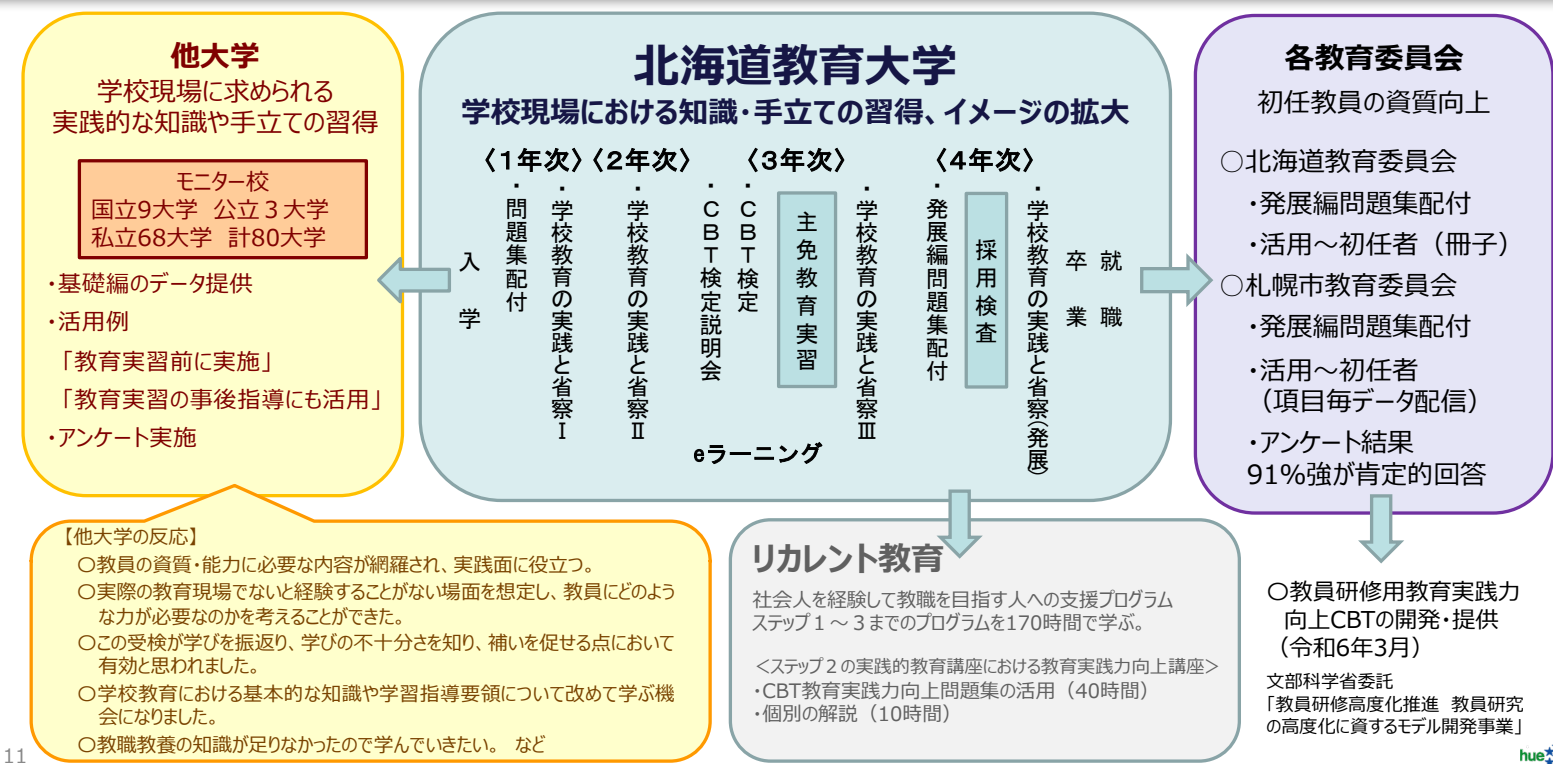
課題解決のために必要な情報を収集及び整理・分析することができたと思いますか。



令和2年度「学校臨床研究に関するアンケート」 n=720 回答率95.7% 平成30年度 n=628 回答率91.3%

HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION hue

5.現状と今後の展開



教育実践力向上
CBT

個別最適・協働的な
学びの実現

実践的指導力の育成